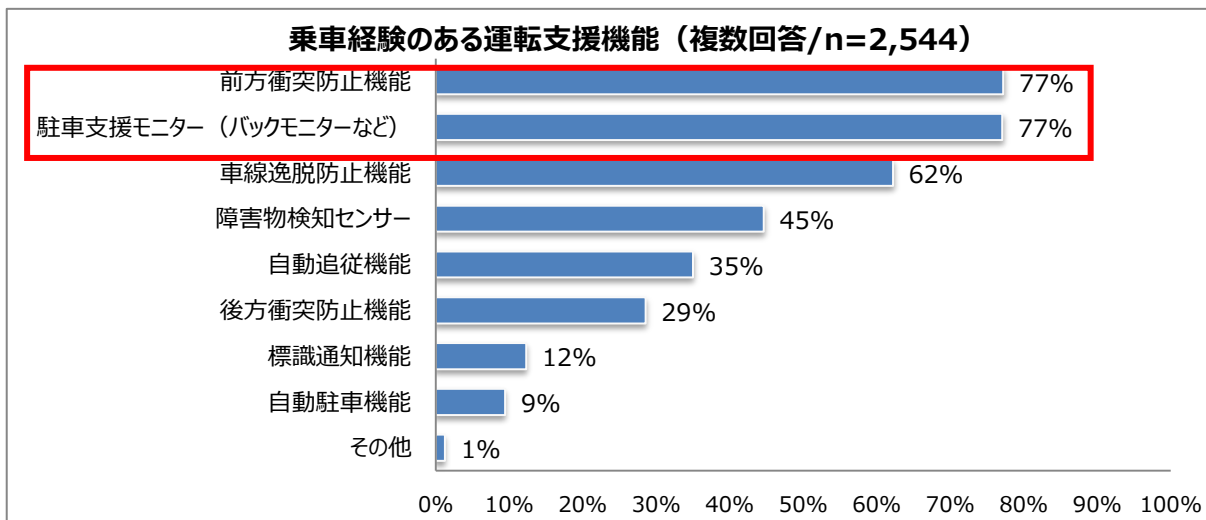


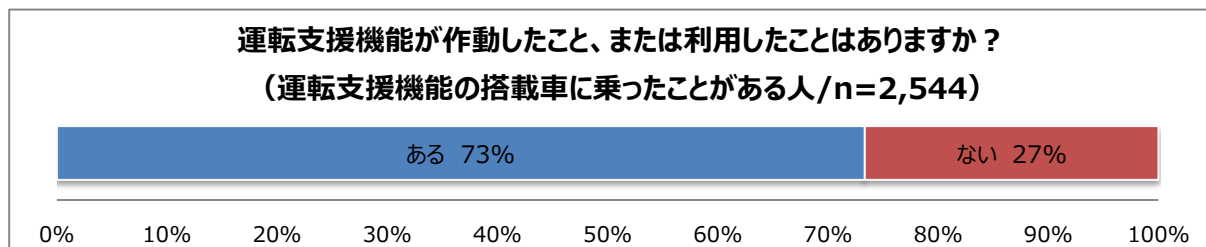
乗車経験のある運転支援機能は、「前方衝突防止機能」と「駐車支援モニター」が77%で最多、次いで「車線逸脱防止機能」が62%でした。平成28年の総生産台数に対する装着率※は、他の機能が20%以下であるのに対し、「前方衝突防止機能」である「車間距離警報」が46%、「衝突被害低減ブレーキ」が43%、「駐車支援モニター」である「バックモニター」が39%と高くなっています。装着率の高さが、乗車経験率の高さに繋がったものと思われます。

※国土交通省「ASV技術普及状況調査（平成29年11月22日現在）」より算出

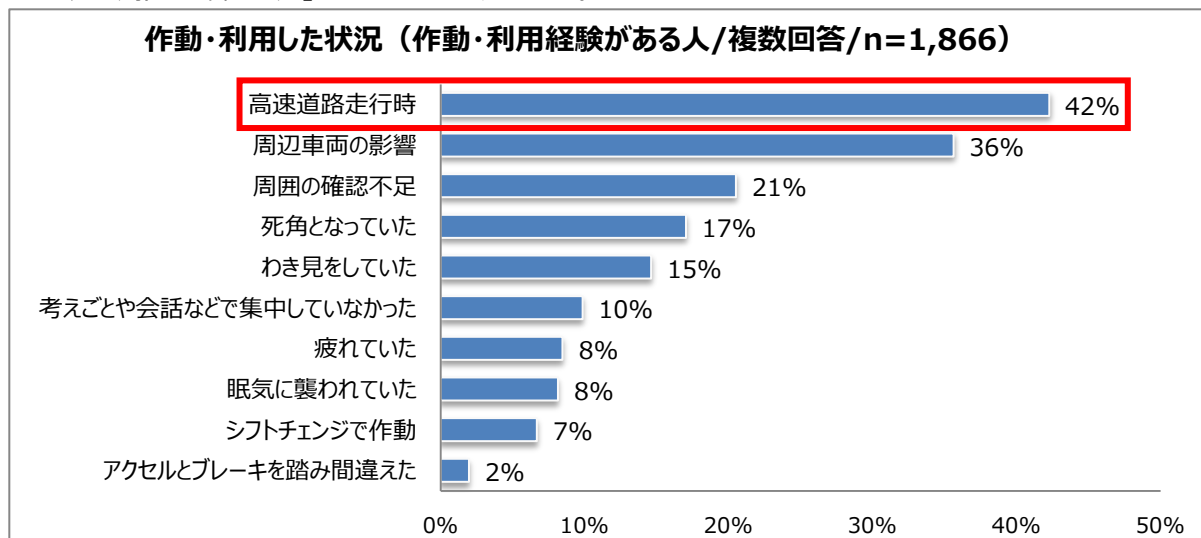


② 運転支援機能の作動・利用経験がある人は73%

運転支援機能が作動、または利用したことが「ある」人は73%、「ない」人は27%でした。

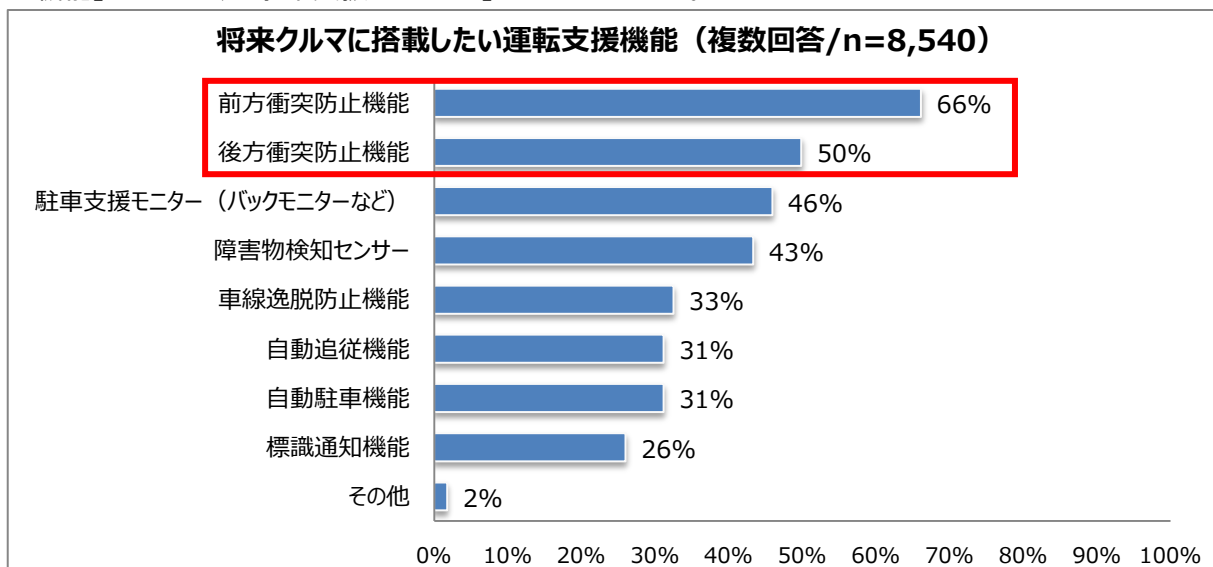


作動、または利用した状況は、「高速道路走行時」が42%でトップ、次いで「周辺車両の影響」が36%、「周囲の確認不足」が21%となりました。



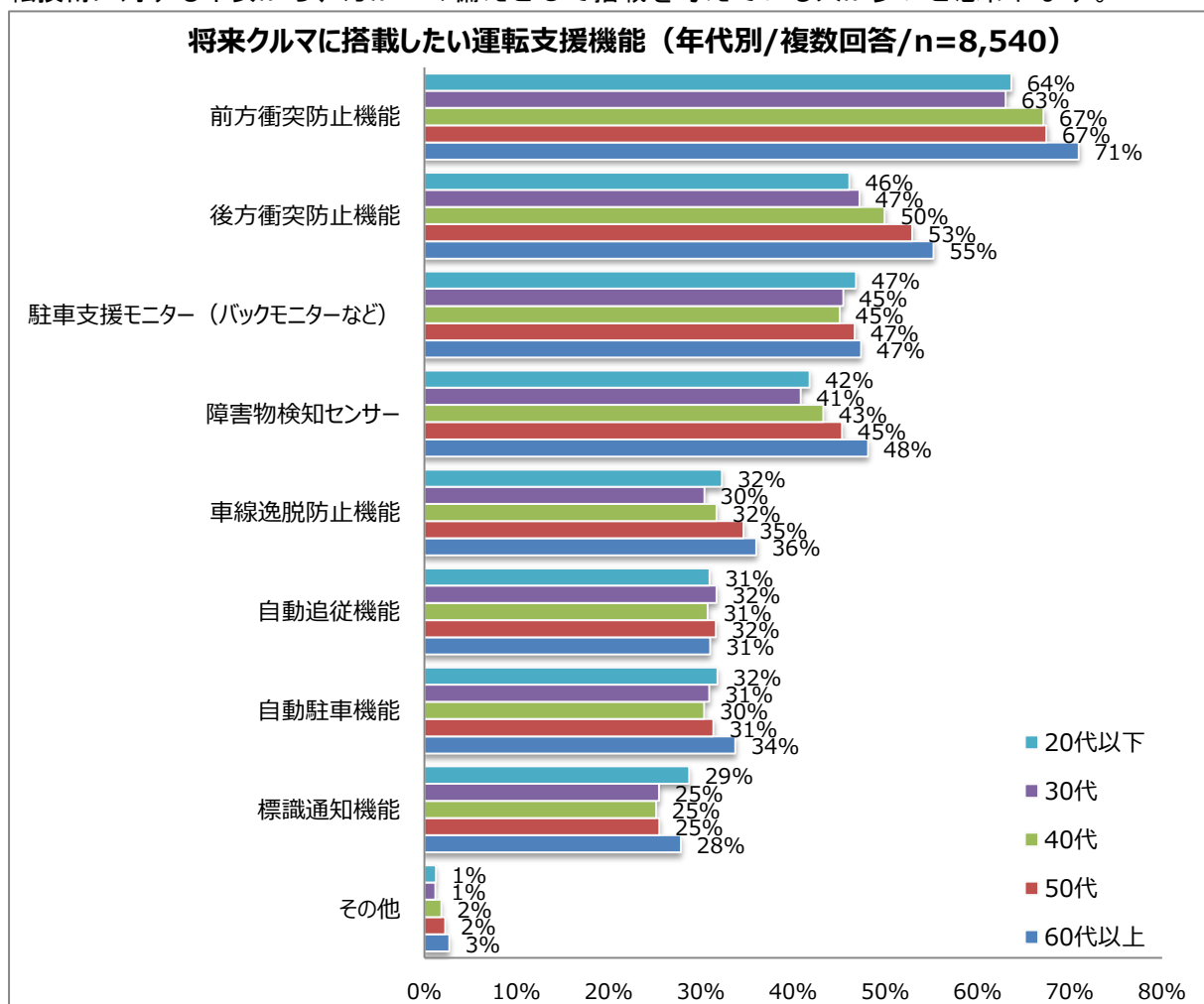
③ 搭載したい運転支援機能は「前方衝突防止機能」がトップ

将来、搭載したい運転支援機能は「前方衝突防止機能」が66%でトップ、次いで「後方衝突防止機能」が50%、「駐車支援モニター」が46%でした。

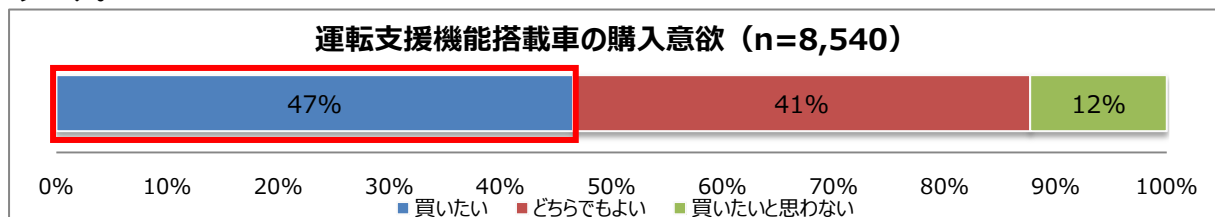


年代別で見ると、すべての年代において、搭載を希望する運転支援機能として「前方衝突防止機能」がトップとなりました。

60代以上は、多くの機能の搭載を希望する傾向にあります。反射神経などの衰えなどによる運転技術に対する不安から、万が一の備えとして搭載を考えている人が多いと思われます。



運転支援機能の搭載車を「買いたい」という人は47%でした。将来的に搭載したい運転支援機能についてのイメージはあるものの、過半数の人が実際の購入についてはまだ検討段階にないようです。



運転支援機能は交通事故の防止に貢献するものではありませんが、正しく運転してこそ安全性が高まるものです。運転支援機能を過信せず、安全運転を心がけましょう。

■調査概要

調査対象：タイムズクラブ会員

(2017年12月4日以降に入室し、直近でタイムズ駐車場・B-Times・タイムズカープラス・タイムズカーレンタルを利用された方)

調査方法：非公開型インターネットアンケート

調査期間：2017年12月4日～2017年12月10日

有効回答者数：8,540名

※本リリースは国土交通記者会、自動車産業記者会に配布しております。